

キャリア教育について

1 キャリア教育の定義

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育

(中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(平成23年1月31日))

2 学習指導要領での扱い

【キャリア教育の充実】(学習指導要領「総則」より)

児童生徒が、**学ぶことと自己の将来とのつながり**を見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、**特別活動を要としつつ各教科等の特質**に応じて、キャリア教育の充実を図ること。

(中学校)

その中で、生徒が自らの生き方を考え**主体的に進路を選択**することができるよう、**学校の教育活動全体を通じ、組織的かつ計画的な進路指導**を行うこと。

(高等学校)

その中で、生徒が**自己の在り方**生き方を考え**主体的に進路を選択**することができるよう、**学校の教育活動全体を通じ、組織的かつ計画的な進路指導**を行うこと。



★**学校で学ぶことと社会との接続**

★**特別活動の学級活動やホームルーム活動を要としながら、学校の教育活動全体で行う**

★**キャリア教育の視点からの小・中・高等学校のつながりを整理**

3 小学校・中学校・高等学校におけるキャリア発達の目標

	小学生	中学生	高校生	
就学前	進路の探索・選択にかかる基盤形成の時期 <ul style="list-style-type: none">自己及び他者への積極的関心の形成、発展身のまわりの仕事や環境への関心、意欲の向上夢や希望、あこがれる自己のイメージの獲得勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の育成	現実的探索と暫定的選択の時期 <ul style="list-style-type: none">肯定的自己理解と自己有用感の獲得興味、関心等に基づく勤労観、職業観の形成進路計画の立案と暫定的選択生き方や進路に関する現実的探索	現実的探索・試行と社会的移行準備の時期 <ul style="list-style-type: none">自己理解の深化と自己受容選択基準としての勤労観、職業観の確立将来設計の立案と社会的移行の準備進路の現実吟味と試行的参加	大学・専門学校・社会人

人間関係形成・社会形成能力

「人間関係形成・社会形成能力」は、多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力である。

この能力は、社会との関わりの中で生活し仕事をしていく上で、基礎となる能力である。特に、価値の多様化が進む現代社会においては、性別、年齢、個性、価値観等の多様な人材が活躍しており、様々な他者を認めつつ協働していく力が必要である。また、変化の激しい今日においては、既存の社会に参画し、適応しつつ、必要であれば自ら新たな社会を創造・構築していくことが必要である。さらに、人や社会との関わりは、自分に必要な知識や技能、能力、態度を気付かせてくれるものでもあり、自らを育成する上でも影響を与えるものである。具体的な要素としては、例えば、他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーション・スキル、チームワーク、リーダーシップ等が挙げられる。

自己理解・自己管理能力

「自己理解・自己管理能力」は、自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力である。

この能力は、子どもや若者の自信や自己肯定観の低さが指摘される中、「やればできる」と考えて行動できる力である。また、変化の激しい社会にあって多様な他者との協力や協働が求められている中では、自らの思考や感情を律する力や自らを研さんする力がますます重要である。これらは、キャリア形成や人間関係形成における基盤となるものであり、とりわけ自己理解能力は、生涯にわたり多様なキャリアを形成する過程で常に深めていく必要がある。具体的な要素としては、例えば、自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、ストレスマネジメント、主体的行動等が挙げられる。

課題対応能力

「課題対応能力」は、仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力である。

この能力は、自らが行うべきことに意欲的に取り組む上で必要なものである。また、知識基盤社会の到来やグローバル化等を踏まえ、従来の考え方や方法にとらわれずに物事を前に進めていくために必要な力である。さらに、社会の情報化に伴い、情報及び情報手段を主体的に選択し活用する力を身に付けることも重要である。具体的な要素としては、情報の理解・選択・処理等、本質の理解、原因の追究、課題発見、計画立案、実行力、評価・改善等が挙げられる。

キャリアプランニング能力

「キャリアプランニング能力」は、「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力である。

この能力は、社会人・職業人として生活していくために生涯にわたって必要となる能力である。具体的な要素としては、例えば、学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、選択、行動と改善等が挙げられる。